

10 . 令和5年度長崎県教育委員会指定
体力向上推進モデル校実施報告

(別紙様式4)

令和5年度体力向上推進モデル校実践報告書

学校名	上長崎小学校	学級数	17
		人数	304

1 取組内容

体育授業の充実のために(体育科授業の様子、使用した教材、作成した資料等)



カラーコーン×牛乳パックで、「ティー」を代用できた。これによって、最大8つのティーで練習できた。



授業のふり返りを google スライド×大型TVで即時「見える化」した。次時のめあてづくりにつながった。

体力向上のために(学校規模や地域の特性に応じた取組、体育科授業の様子等)



放課後の小体会練習の指導を、「児童の体力向上」のため、全職員で計画立てて行なった。



「ランジ」股関節の柔軟性向上のため、体育の授業の初めに全校で取り組んだ。

学校プレイパーク化計画（思わず体を動かしたくなる「場」の設定）



「イカゲーム」バランス調整力 UP
校門から児童玄関までの道を6年生がペイント。遊び方の例示動画を作成した。

「ジャンプで、ポケモンゲットだぜ！」跳躍力 UP
5段階の高さの的を設置。
任天堂に、ポケモンキャラの使用可を確認。

2 成果

「運動やスポーツをすることは好きですか」の質問に対して、「好き」と答えた児童が、年度当初は156人（58%）だったのが、年度末は187人（70%）に向上していた。

また、「体育の授業は楽しいですか」の質問に対して、「楽しくない」と答えた児童が、年度当初は20人（7.4%）だったのが、年度末は8人（3.0%）で、「楽しい」と答えた児童が、年度当初は158人（58.7%）だったのが、年度末は160人（61.0%）に向上していた。

これらのアンケート結果から、体育科の授業や学校プレイパーク化の取り組みによって、「運動・スポーツ好き」が増え、本校研究による全教職員での努力の成果が表れていると考えられる。

3 課題

「体育の授業では、運動のやり方や上手くできるようになるための方法がわかりますか」の質問に対して、「分からない」及び「あまり分からない」と答えた児童が、年度末においても19人（7.1%）いた。

「運動やスポーツをどのくらいしていますか」の質問に対して、「しない」及び「ときたま」と答えた児童が、年度末においても34人（12.7%）いた。

これらのアンケート結果から、体育の授業で「上手くできるようになるための」知識面での理解が進んでおらず、「運動・スポーツ好き」ではない児童がいるということが分かった。さらに、寒くなるにつれ、体育の授業以外で運動する機会が少なくなる児童がいる。

生涯に渡る豊かなスポーツライフの重要性を、知識としてはもちろんのこと、まずは「体を動かすことが楽しい！」と思える授業から実現していきたい。

(別紙様式4)

令和5年度体力向上推進モデル校実践報告書

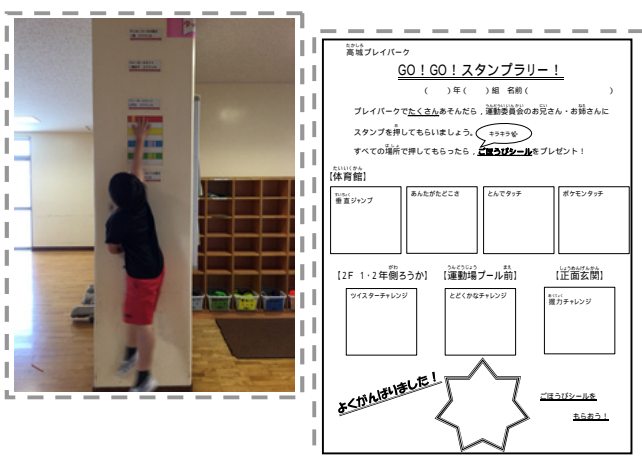
学校名	長崎市立高城台小学校	学級数	19学級
		人数	458人

1 取組内容

体育授業の充実、体力向上のために



低・中・高1本ずつの研究授業

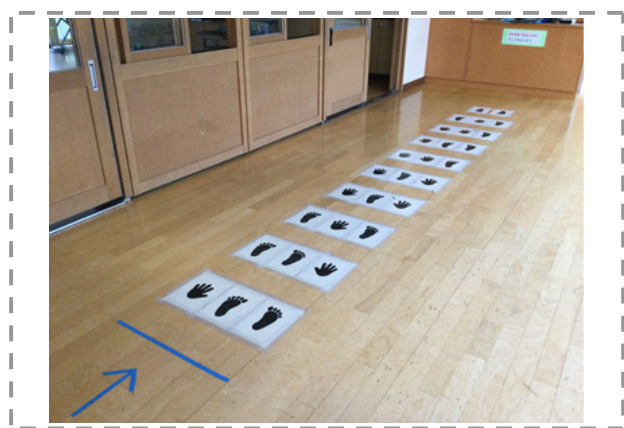


環境研究部と運動委員会で企画したスタンプラリー

学校プレイパーク化計画(思わず体を動かしたくなる「場」の設定)



ハンドグリップを使った、思わずにぎりたくなる握力を高める場



指示通りに手足を動かして、思わず進みたくなる巧みな動きを高める場



「あんたがたどこさ」のリズムで友達と跳ねたくなる
巧みな動きを高める場



少しずつ高くなっていくパネルをタッチしたくなる
ジャンプ力を高める場

2 成果

（体育授業の充実について）

低・中・高1本ずつの研究授業を行った。その際、次の研究授業に向けての提言を集めて、3本の授業を繋いでいくことで、研修を深めることができた。

体づくり運動について、単元の組み方や指導の行い方を研究することができた。

（全校体育アンケート）

体力がついたと実感している児童が9割を超える学年がほとんどであった。今後も授業や単元の終わりに自分の成長（技の出来栄え、記録、体感など）を見付けたり、友達同士で伝え合ったりする活動に取り組むなどして、体力の向上を実感させていきたい。

全学年、9割を超える児童が夢中になって体育の学習に取り組むことができていた。これからもみんなが夢中になれる体育学習を目指して授業づくりを行っていきたい。

3 課題

（体育授業の充実について）

ICTのC（コミュニケーション）を大切にしたい授業づくりをしていきたい。

評価の考え方や行い方について不安があるので、今後研修を深めていきたい。

（全校体育アンケート）

「体を動かすことが好き」という肯定的回答より「体育の学習は好き」という肯定的回答が上回っている学年が3学年あった。「体を動かすことが好き」の割合をより高め、日々の生活の中で運動を行おうとする児童を増やしていきたい。

体育は好きと回答する児童が多いが、体育の学習が遊びにあまり反映されていないことが分かった。授業づくりをするときに「この運動は子供が取り組みやすいものか、児童だけでもやれるものか、体育の学習以外もやりたくなるしかけはないか」という視点を持ち、児童の遊びに広がりを持たせたい。

(別紙様式4)

令和5年度体力向上推進モデル校実践報告書

学校名	諫早市立みはる台小学校	学級数	10
		人数	201

1 取組内容

○体育授業の充実のために



【6年 ボール運動（ゴール型）アルティメットを基にした簡易化されたゲーム】
どの児童も、楽しんで体育に参加できるように、柔らかいディスクを活用するなどして工夫して取り組めるようにした。



【5年 体づくり運動】
体の動きを高めるために、ケンステップや平均台などを使って場を工夫し、様々な動きを取り入れた活動を設定した。

○体力向上のために



【全学年 サーキット・トレーニング】
タイヤ跳びや雲梯、登り棒など、様々な動きを取り入れたサーキット・トレーニングを全学年で、体育の時間の最初に取り組む場を設定した。



【全学年 なわとびチャレンジ（3学期）】
運動量の確保を目指して、2学期は、持久走、3学期は短縄跳びと始業前に、体育委員会を中心に、自主的に全学年で取り組む場を設定した。

○学校プレイパーク化計画（思わず体を動かしたくなる「場」の設定）



【鉄棒でできる様々な遊びを紹介した表示】

子供たちが休み時間によく遊ぶ鉄棒を使った様々な遊び方を紹介した。また、同様に、登り棒や雲梯などにも同様に表示した。



【ジャンプタッチボード】

体育館や校舎間の渡り廊下に、ジャンプしてタッチする動物キャラクターの的を高低差10cmずつつけて4つ作成した。

2 成果

- 児童のアンケート結果から、「体育の授業は楽しい」と回答した児童が増えたことは大きな成果である。また、このことが、「運動やスポーツをすることは好きである」という児童が増えたことにもつながっていると思われる。
- 体力向上を目指して、体育の授業の最初に行うサーキット・トレーニングを体育主任を中心に開発することができた。
- 「持久走記録会」や「なわとびチャレンジ」に向けて、がんばりカードを活用することにより、体力向上を目指して、粘り強く意欲的に取り組む児童が増えてきた。
- 市教育研究会体育部会と共催して、6年体育の授業を公開した。また、中学校の体育教員にも参加していただき、本事業の普及・啓発や小中連携につながった。
- 教職員アンケートから、体育専科だけではなく、全職員が体育授業の在り方について学ぶ機会をもつことができ、体育の授業力向上につながった。

3 課題

- 昨年度と今年度の県体力・運動能力調査を比較するが、今年度の5・6年生において、顕著に向上している項目はうかがえない。今後は、本年度の反省を総括し、全職員で、共通理解し、次年度に向けて、確実に体育主任を中心に引き継ぎを行う必要がある。そして、次年度当初に、体育全体計画として、全職員で共通理解・共通実践していく。
- 本事業での取組の成果を全学年の体育の授業に生かしていきたい。そのために、児童の体育の授業に対するアンケートを全学年に実施し、実態把握を行いたい。
- サーキット・トレーニングの中に、プレイパークの活用も盛り込む必要がある。
- 体育の授業を体育館で行う場合、総合的な動きを取り入れた運動を開発し、体育の時間の最初に全学級で取り組むようにしたい。